

お知らせ

2005
4月前半

カレンダー

- 1 金** 大和公民館と図書館大和分室がオープン
- 2 土** 梅まつり写真コンテスト・俳句大会作品展示 (10日まで、9時～17時、冠山総合公園)
S Pレコードコンサート (10時30分～11時30分、ふるさと郷土館)
- 3 日** 三島さくら祭 (9時～15時、三島公民館駐車場)
ひかるちゃんの桜まつり (10時～14時、西河原緑地公園)
光市民テニス大会 (男子・女子シングルス、壮年ダブルス) (スポーツ公園)
ガムラン楽器の展示と体験講座 (10時～16時、ふるさと郷土館)
- 4 月**
- 5 火** 健康相談 (9時30分～11時、周防公民館)
- 6 水** 心配ごと相談 (10時～15時、大和支所)
家族介護者教室 (10時～12時、しまた在宅介護支援センター)
児童合唱団ひかりスプリングコンサート2005 (開演18時30分～、市民ホール)
- 7 木** 献血 (10時～16時、市役所)
心配ごと相談 (10時～15時、あいぱーく光)
人権相談 (10時～15時、大和支所)
育児相談、歯の健康相談 (13時30分～15時、あいぱーく光)
- 8 金**
- 9 土** お花見の会 (10時～15時、周防の森ロッジ)
- 10 日** 光市民テニス大会 (男子・女子ダブルス、壮年シングルス) (スポーツ公園)
- 11 月**
- 12 火** 梅まつり写真コンテスト・俳句大会作品展示 (20日まで、9時～17時、伊藤公資料館)
- 13 水** 弁護士無料法律相談 (9時～12時、市役所)
- 14 木** 人権相談 (10時～15時、あいぱーく光)
- 15 金** 3歳児健診 (13時～14時、あいぱーく光)

4月のごみ収集日 (4月1日～30日)

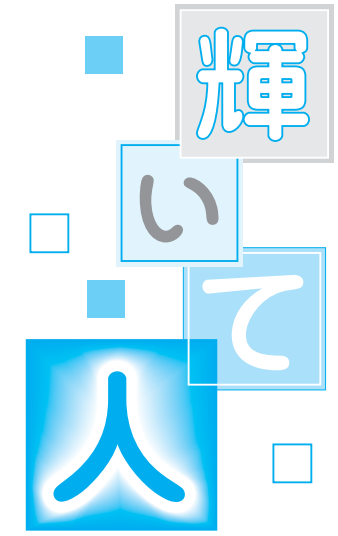
地区	資源ごみ	埋立ごみ	可燃粗大ごみ
浅江 (JR線路北側)	4日、18日	11日、25日	6日
浅江 (JR線路南側)	5日、19日	12日、26日	6日
島田	5日、19日	12日、26日	27日
光井	6日、20日	13日、27日	27日
室積	7日、21日	14日、28日	13日
中島田・三井・上島田・周防	1日、15日	8日、22日	20日
岩田・塩田	新聞等6日、20日 ビン・缶等13日、27日	パツパツ 18日	11日、25日
三輪・束荷	新聞等14日、27日 ビン・缶等7日、21日	パツパツ 18日	11日、25日

毎月第1資源ごみの収集日に、ビン・缶などの資源ごみと一緒に小型家電品を回収します。分解しないで、そのままの形で出してください。



吉岡さんの優しいフルートの音色が響きました。

「いつもそばにあるけれど気づかない優しさや愛情を、フルートの演奏を通して伝えたい。」と話すフルート奏者の吉岡歌子さん。現在、吉岡さんは、病院や小学校などでの演奏や地元音楽仲間とのコンサートなど、精力的に演奏活動を行っています。そんな吉岡さんのフルートに込めたメッセージや、これからの目標を聞いてみました。



夢を持つことのすばらしさを子どもたちに伝えたい！

吉岡さんは小学校の非常勤講師をしています。子どもたちにフルートを聴いてもらおうと、小学校でも演奏会を開いています。普段の吉岡さんとは違って、ドレスを着てフルートを吹く姿に、子どもたちはとても喜んでいてくれます。「私の演奏する姿を見て、夢をもって頑張ることのすばらしさを感じ取ってくれば、演奏後の子どもたちの目の輝きに、吉岡さんはそう願っています。」

13日に行われた「第20回市民コンサート」では、吉岡さんの繊細で澄んだフルートの音色に会場が包まれました。「人の心に響く音楽を演奏したい。」そんな吉岡さんの強い思いが、フルートの優しい音色とともに伝わってきました。

フルートは私の分身

吉岡さんが初めてフルートに触れたのは、中学時代。「その頃は、こんなに深くフルートと関わるようになるうちは思ってもいませんでした。でも、本格的に勉強を始めて、フルートの楽しさや魅力に気づいたんです。「言葉では伝えきれない「想い」をフルートの演奏を通して表現できたなら...。今では、フルートは吉岡さんの分身になっています。」

地域文化の向上のために

吉岡さんの目標は、「これからますます演奏活動を続けていくこと。そして、光市でもっと身近に生の演奏とふれあえる環境ができること。「市内では、生の演奏に触れる機会があまりありません。地元の文化向上のためにも、私の活動が少しでもお役に立つことができたらと思っています。」



フルート奏者 吉岡歌子さん (虹ヶ丘4丁目)

これからもずっと、フルートと二人三脚で歩いていきたい

編集後記

広報を担当して3年が経過しようとしています。締切に追われる毎日、初めは戸惑っていましたが、そんな日々が今では私の日課となっています。この3年間、多くの人と出会い、その出会いの一つひとつに支えられてきました。最近では、市民の方から「広報が届くのを、毎回楽しみにしていますよ。」とか、「最近、広報の写真がとってもいいね。」、「編集後記がすごく印象的でした。」と声をかけていただけるとなりました。そんな皆さんの温かい声が、私に力を与えてくれます。こんなすばらしい体験ができるのも広報担当者だからこそ。しかし、この瞬間が永遠に続くわけではありません。限られた時間の中だからこそ、一つひとつの出会いを大切に、皆さんに感動を与えられるような広報紙をつくっていきたいと思っています。(A)